

平成 25 (2013) 年度 事業報告

(平成 26 年 6 月 3 日理事会議決、6 月 12 日評議員会承認)

I. 公益財団法人の記録

1. 役員等の異動

平成 25 年 6 月 30 日 退任 評議員／野村浩一

2. 会員数 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

(1) 普通会員		() 内は昨年度との差異
個人会員	11,519 人	(-87 人)
ファミリー会員	2,568 人	(-63 人)
ユース会員	76 人	(+28 人)
(2) 団体会員	366 口／227 団体	(-1 口／+1 団体)
(3) 賛助会員	55 口／43 法人	(+2 口／+2 法人)
(4) 寄付サポーター	765 人	(+81 人)
(5) アクションサポーター	10,338 人	(-1,472 人)
合 計	25,687 人・口	

3. 会議

(1) 理事会

・5 月 31 日 通常理事会／ (議決)	第 1 号議案	2012 (平成 24) 年度事業報告および財産目録等
	第 2 号議案	評議員会の開催について
・12 月 16 日 臨時理事会／ (議決)	第 1 号議案	資産運用規程および 2013 (平成 25) 年度資産運用方針の策定について
	第 2 号議案	評議員の欠員補充について
	第 3 号議案	事務局長選任の確認について
・2 月 13 日 臨時理事会／ (議決)	第 1 号議案	2013 (平成 25) 年度補正予算について
	第 2 号議案	臨時評議員会の開催について
・3 月 17 日 通常理事会／ (議決)	第 1 号議案	2014 (平成 26) 年度事業計画および収支予算
	第 2 号議案	次期参与の選任について
	第 3 号議案	規程類の改定について

(2) 評議員会

・6 月 13 日 定時評議員会／ (議決)	第 1 号議案	2012 (平成 24) 年度事業報告・決算の承認
・3 月 31 日 臨時評議員会／ (議決)	第 1 号議案	次期理事の改選方法について

(3) 委員会等

- ・ 参与会 (12/16)
- ・ 常勤理事報酬に関する理事ミーティング (3/5、3/17)
- ・ 生物多様性の道プロジェクト 2013 アドバイザリー会議 (8/8、10/31、1/7)
- ・ UNDB-J 支援事業財務委員会 (5/20、2/25)
- ・ 資金運用検討ワーキング (10/21、11/26)
- ・ 沿岸保全管理検討ワーキンググループ
- ・ 赤谷プロジェクト／自然環境モニタリング会議 (12/6、2/18)

- ・赤谷プロジェクト／植生管理ワーキンググループ（7/10、8/23～24、11/12、1/24）
- ・赤谷プロジェクト／ほ乳類ワーキンググループ（9/24、1/13）
- ・赤谷プロジェクト／猛禽類ワーキンググループ（5/18、8/23～24、12/14）
- ・赤谷プロジェクト／ニホンジカ検討チーム会議（10/8、12/12～13）
- ・小笠原南島調査検討会（3/13）
- ・東北海岸調査委員会（7/10、12/11）
- ・SISPA 研究会（2/13）
- ・モニタリングサイト 1000 里地調査／解析ワーキンググループ（7/31、12/26）
- ・モニタリングサイト 1000 里地調査／検討委員会（8/1、3/5）
- ・自然観察路コンクール審査会（11/1）
- ・指導員養成ワーキンググループ（12/23）
- ・指導員講習会 講師会議（2/2）
- ・会報ワーキンググループ（5/28、7/23、9/20、11/22、1/24、3/25）
- ・沼田眞賞選考委員会（7/26）

4. 意見書等の公表

(1) 意見書・要望書等（代表者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、19 件の意見・提言を提出した。（別表 1）

(2) 声明・パブリックコメント等（主に業務担当責任者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、18 件の声明・パブリックコメント等を提出した。（別表 2）

5. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる 28 件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。（別表 8）

6. 印刷物の発行

(1) 会報『自然保護』

- ・第 533 号～第 538 号（年 6 回、奇数月発行、36～40 頁、各号約 15,000 部）

(2) 報告書・資料集

- ・資料集 No.51『日本の保護地域アトラス』（1,000 部）
- ・資料集 No.52『自然しらべ 2012 貝がらさがし！報告書』（1,000 部）
- ・資料集 No.53『自然しらべ 2013 日本のカメさがし！報告書』（1,000 部）
- ・資料集 No.54『ココからはじめる生物多様性地域戦略 地方自治体・実践事例集』（400 部）
- ・報告書 No.100『ジャングサウォッチ 10 年のまとめ』（100 部）

(3) 受託事業報告書

- ・平成 25 年度モニタリングサイト 1000 里地調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター）
- ・平成 25 年度三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画（赤谷プロジェクト）推進事業報告書（関東森林管理局）
- ・平成 25 年度南島自然環境モニタリング調査委託報告書（東京都小笠原支庁）
- ・平成 25 年度屋久島世界遺産地域における森林動態モニタリング調査業務報告書（環境省九州地方事務所）

(4) 共同発行刊行物

- ・『赤谷プロジェクトの歩み ー第 1 期』（赤谷プロジェクト地域協議会・林野庁関東森林管理局と共同、500 部）

(4) パンフレット等

- ・ 寄付リーフレット（1 種類、計 28,000 部）
- ・ 個人会員入会案内パンフレット（42,900 部）
- ・ 個人会員アンケート用紙（13,000 部）
- ・ 「2020 年会員」入会キャンペーンチラシ（39,000 部）
- ・ 組織概要パンフレット（和文 3,000 部、英文 1,000 部）
- ・ 第 30 回自然観察路コンクールパンフレット（27,000 部）
- ・ みなかみ町 旧三国街道マップ（2,000 部）
- ・ 東日本海岸調査報告書（500 部）
- ・ 「辺野古サンゴ礁を守るため意見を送ろう！」チラシ（6,000 部）
- ・ NACS-J 自然観察指導員講習会 2013 年度開催一覧チラシ（10,000 部）
- ・ 2014 全国一斉自然かんさつ会 開催一覧チラシ（6,500 部）
- ・ 「自然しらべ 2013 日本のカメさがし！」調査マニュアル（66,500 部）、結果レポート（17,000 部）
- ・ 冊子『磯のガイドブック 南三陸町坂本海岸編』（500 部）

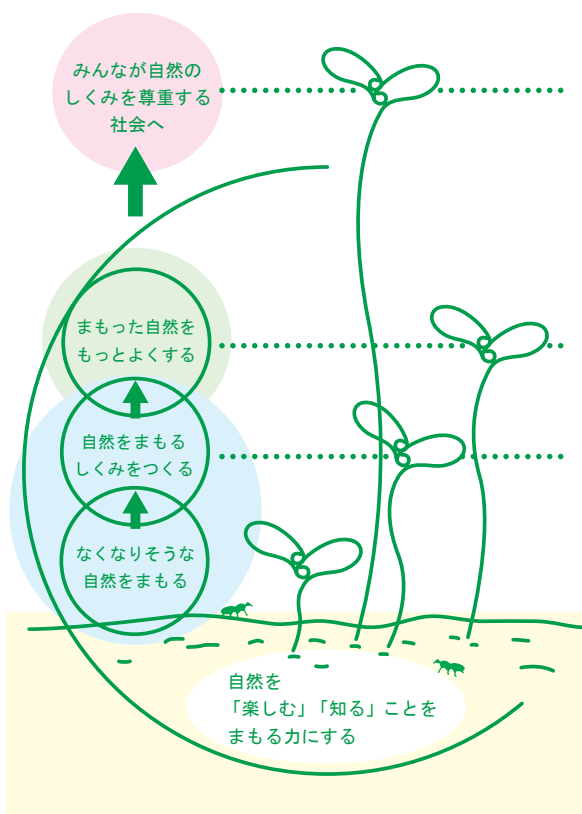
II. 事業報告書

総括

自然を破壊し改変する動きは、近年さらに激しさを増しています。東北の海岸では巨大防潮堤の建設が始まり、さらにそれを全国の海岸に広げようとする動きや、新たな巨大開発であるリニア新幹線のアセスメントもすすめられ、着工は目前となっています。特に日本の沿岸を取り巻く状況は、防潮堤建設のように陸と海とのつながりの破壊や、沖縄県名護市での米軍施設の建設によるサンゴ礁生態系の破壊など、危機的な事態にさらされています。国際的には愛知ターゲットに基づいて海洋保護区の設定を加速するなど関心がもたれてきていますが、国内では2013年度も開発事業から「なくなりそうな自然をまもる」活動がまだまだ必要な状況が続きました。日本自然保護協会は、上の地図にあるように全国各地の自然保護問題で、数多くの調査と多数の政策提言や意見を発表しました。

私たちは、自然保護の次の段階へ進め、暮らしを支える豊かな自然として「まもった自然をもっとよくする」「自然をまもるしくみをつくる」ため、自然を活かした地域づくりの全国的な展開を目指す「生物多様性の道プロジェクト」を重点事業として行っています。2013年度は全国の自治体の生物多様性地域戦略の策定を支援するため、実践事例集を刊行し、地方自治体職員の研修や戦略策定を支援する活動も行いました。

また自然を「楽しむ」「知る」ことをまもる力にするための人づくりは、協会の活動の基礎となるものです。35年に渡る自然観察指導員講習会では2万7000人以上が受講され、自然観察指導員は、ボランティアリーダーとして活動し、地域の学校教育への参画や自然保護運動の先頭に立つ活動、自治体の生物多様性地域戦略の策定への参画など、多様な活躍をされています。



2020年までの中期計画では、こうした「人づくり」を柱に、生物多様性を活かした「地域づくり」と「産業づくり」に向けても幅広く取り組んでいきます。2013年末からは新たな活動メッセージとして「自然のちからで、明日をひらく。」をかかげ、将来を見据えた活動に取り組んでいます。皆さまからのご支援とご協力により、2013年度に進められました活動をご報告いたします。

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長 亀山 章

NACS-Jの長期目標・ビジョン

日本自然保護協会が守りたいものは、くらしをささえる豊かな自然です。2050年には「自然や生き物たちと共存する社会がつくられている」ことが目標です。

中期事業目標・2020年目標

2010年の生物多様性条約COP10で決議された愛知目標では、「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する。これは、2020年までに、回復力のある生態系と、その提供する基本的なサービスが継続されることが確保され、それによって地球の生命の多様性が確保され、人類の福利と貧困解消に貢献するためである」というミッション（使命）が合意されました。

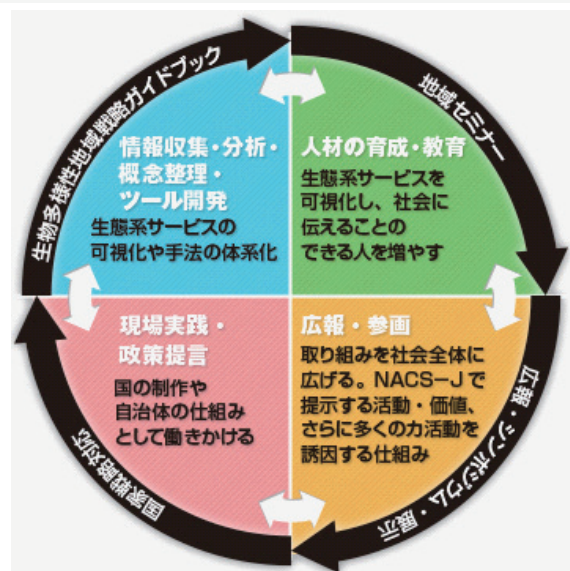
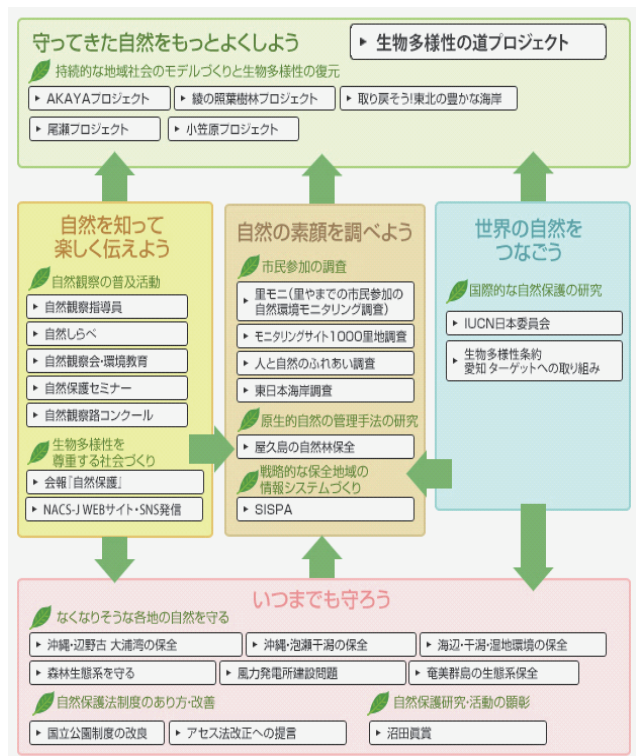
このミッションを、60年以上日本の自然を守る活動が続けてきたNACS-Jも共有し、「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」ため、ナショナルNGOとして国家レベルの施策や地域行政への科学的根拠に基づく政策提言、現場の問題解決のための運動を加速します。また研究者・専門家と協力しながら、市民一人ひとりが地域の自然の守り手として活躍し、地域の生物多様性が保全される強力なしくみを2020年までにつくることを目標としています。

2011年からは、地域レベルでの生物多様性保全を躍進させるための10年間の重点事業として「生物多様性の道プロジェクト」を開始し、次の3つの視点を2020年までの10年間の目標として活動しています。

人づくり： 生物多様性の視点から産業づくりや社会づくりを行う方策を理解し、人に伝え行動し、周囲を巻き込む人材を個々の現場で育てます。同時にそうした人材が活躍できるポストを特に行政内に作るよう働きかけ、生物多様性を活かした地域づくりの専従者を増やします。

社会づくり： 恩恵を受けている生態系サービスに対して、持続可能な暮らしに対して、あるいは、それらを守る取り組みに対して、対価が支払われるしくみをつくり、かつ支払う人を増やします。

産業づくり： 生物多様性を保全し、そこからもたらされる生態系サービスを持続可能に利用する産業（エコツーリズムや、生物多様性認証農業、エネルギーなど）が、長期の持続可能な価値・利益を持つことを証明できる事例をつくります。



生物多様性の道プロジェクト10年間の活動サイクル

2013 年度の重点事業

●支援者拡大事業・広報戦略会議

2012 年度より継続した各部横断型の広報戦略会議で、個人や企業へ自然保護活動の普及啓発と支援協力を呼びかけるプロジェクトや組織イメージ再構築の企画と試行を実施しました。個人、企業、若者など会員への学びの機会提供や自然を思う仲間を増やすきっかけづくりのため、日本自然保護協会に集う各分野のスペシャリストが講師を務めるオープンカレッジ「NACS-J 市民カレッジ」を開始しました。また外部専門家の協力を得て、組織のブランディングの再構築とイメージ戦略を検討し、キャッチコピー「自然のちからで、明日をひらく」を作成、ロゴのリニューアルにも着手しました。年末には多くの法人会員や支援団体のご協力により、日本経済新聞への全面広告掲載を実現し、会の認知度向上を図りました。

新たな大口の支援金獲得には残念ながら至りませんでした。今後の生物多様性保全事業を企業や他セクターと連携させて活動していく方向を見出すことができました。

●現場の保護問題への体制強化

事務局の保護プロジェクト部と保全研究部を保護・研究部として再編し、スタッフの流動性を高め体制を強化しました。東北沿岸の巨大防潮堤問題、千葉県そうふけっばらのニュータウン開発計画、福井県中池見湿地の北陸新幹線開発計画、リニア中央新幹線開発計画、沖縄辺野古のサンゴ礁を埋め立てる普天間代替飛行場建設計画などについて、地元会員や地域団体と取り組み、重要な局面を逃さずに意見表明をし、計画見直しのきっかけづくりや世論づくりができました。千葉県そうふけっばらのニュータウン開発計画での世論づくり、中池見湿地の北陸新幹線計画での事業者の情報公開、ラムサール事務局に働きかけて国際条約の問題に引き上げることができたことは、とくに 2013 年度の体制強化の成果といえます。

また、東日本大震災の復興として進められている巨大防潮堤計画や、沖縄県・辺野古などサンゴ礁域での自然保護問題も、日本の沿岸問題として一体的な取り組みに再編しました。辺野古の問題を通じて環境アセスメント法や公有水面埋め立て法の不備を明らかにしてロビーイングを行ったほか、沖縄県名護市嘉陽海岸では、生態系配慮型（セツトバック方式など）護岸の実践事例づくりに、地元団体と第一歩を築き、我が国で初めて開催された東アジア国立公園会議や愛知ターゲット関連イベントなどで、陸上にくらべて遅れている沿岸の自然保護への取り組みを訴えました。

リニア中央新幹線や巨大防潮堤、国土強靱化基本法など、新たな自然保護問題についても、情報収集して問題点を整理し、講演や寄稿など地域の支援を行ったほか、会報で特集するなどして、会員に最新の自然保護問題の情報を発信し、警鐘をならすことができました。

●生物多様性の道プロジェクト

「愛知目標」実現のため、地域戦略を実効性のあるものにする取り組みを行いました。地域戦略策定を市町村で広めるには、実務を担う自治体職員への支援が必要であることから、2011 年度作成の地域戦略ガイドブック続編として『ココからはじめる生物多様性地域戦略 地方自治体・実践事例集』を発行。この冊子を活用したセミナーを開催して、今後の支援ツールとすることができたほか、地域の取り組み支援する「出前講座」を全国 3 カ所で開催しました。

また、地域主体の保全の実践事例づくりのため NACS-J が係わってきた地域をモデル地域として取り組み、宮崎県綾町では地域戦略づくりが着手され、千葉県流山市では市民団体と選定した重要地域を行政計画に反映させることができ、福井県中池見湿地では保全計画策定委員会が設置され NACS-J も参画を求められました。

これらの生物多様性地域戦略に関する取り組みが評価され、戦略づくりに取り組む県や区・市などから協力・事業依頼が寄せられました。

◆生物多様性の道プロジェクト

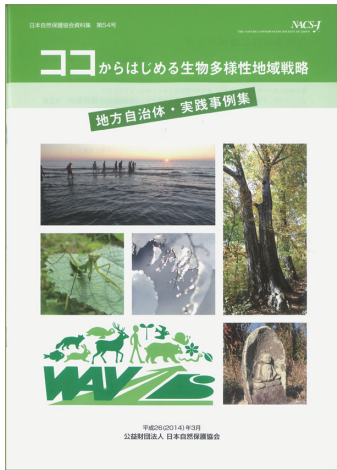
2013 年度の目標	2013 年度の成果
・「愛知目標」の実現に向け、生物多様性国家戦略と地域戦略を実効性のあるものにする。 ・モデル地域での生物多様性保全の成果を広く発信し、他の地域に波及させる。	・モデル地域で生物多様性地域戦略作りを進めることができた。（宮崎県綾町、千葉県流山市、福井県中池見湿地） ・地域戦略策定を行う自治体職員を支援するツールができ、活用の実績ができた。 ・これまでに作ったツールを活かし、ふれあい調査の実施を呼び掛け、宮城県登米市などで実施できた。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1	資料集の発行	・地域戦略の策定を行う自治体職員を支援するガイドブックが新たにでき、活用の実績ができた（実践事例集、セミナー）。 ・地域戦略の重要性を普及啓発できた。	（地球環境基金助成事業） ・『ココからはじめる生物多様性地域戦略「地方自治体・実践事例集」』を発行（2月）。 ・セミナー「生物多様性地域戦略の活かし方～地域の発展を目指した事例から学ぶ～」を地方自治体担当者対象に開催。（3月、東京、30自治体が参加） ・自治体職員向け生物多様性地域戦略シンポジウムを、鹿児島県と主催で開催。（1月、鹿児島） ・生物多様性地域戦略に関する出前講座を3カ所で実施した（愛媛内子町、佐賀県、沖縄県）。 ・みなかみ町赤谷の森で、地域の魅力を発信するマップの2作目として季節別マップ「三国山のお花畑を歩こう！（7月中旬）」を作成した。
2	モデル事例づくり全体総括	・中池見：多様な主体からなる保全計画策定委員会が設置されることとなった。 ・下総：千葉県流山市で、複数の市民団体を巻き込みボトムアップで保全重要地域を選定し、一般への普及や行政計画に結び付ける実例を作ることができた。	・ラムサール条約湿地である中池見湿地（福井県）で、協議会準備会に出席し、合意形成を支援した。 ・千葉県下総で、流山市内の複数の市民団体が生態系サービスの保全重要地域を洗い出し、「暮らしと自然のふれあいマップ」をまとめた。
3	道プロジェクト広報	・生物多様性地域戦略に関するNACS-Jの取り組みが評価され、協力・事業依頼が寄せられた。	・宮崎県綾町で、綾町生物多様性地域戦略の「命ゆたかな綾づくりプラン」策定に向けた市民アンケート調査、役場職員向け研修会を実施した。 ・宮崎県、高知県での生物多様性地域戦略の講演・市民意見収集のためのワークショップ運営や、目黒区の戦略の英訳監修をおこなった。 ・ふれあい調査を自治体の依頼を受けて実施した（登米市、奄美など）。
4	UNDB-J（国連生物多様性の10年日本委員会）による、生物多様性の主流化活動を支援するための仕組みを整える。	・UNDB-J支援事業の寄付金の管理と活用プログラムの実施による、生物多様性の主流化推進事業を多数実施。 ・IUCN-J事務局の連携による、多セクターの協力体制の維持に貢献。	生物多様性主流化支援事業 ・UNDB-J幹事会・運営委員会への参画 ・UNDB-J支援事業財務委員会の設置と運営（2回開催） ・UNDB-J支援事業の実施（生物多様性地域出前講座開催、生物多様性情報ポータルサイト企画設計、エコプロダクツ展出展、生物多様性の本箱寄贈プログラム実施等） ・UNDB-J支援事業（オフィシャルWEBサイト構築・運営委託事業）

◆広報戦略会議

2013 年度の目標	2013 年度の成果
広報戦略会議を実施し、重点広報事業の見せ方・広報の仕方を研究し、支援者獲得アピールを行う。またNACS-Jのブランドイメージの再構築を行う。	認知度向上、会員特典の向上は進展。次年度実施の支援プログラムが試行、着手できた。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1	広報戦略会議	・多数の企業・団体の協力を得て日経新聞の全面広告企画を制作。350万部の発行で日本自然保護協会の広報を実施。 ・「東北～全国の海辺」「自然しらべカメラさがし」の2テーマで対象を絞り込みながら入会募集・寄付拡大にあたったが、新規の雑誌記事の協力、印刷協力、新規入会を得たものの、大規模な支援金獲得には至らず。 ・UNDB-J、IUCN-Jと協働し、エコプロダクツ展、GTF@新宿御苑に出展。 ・会員アンケートでは全会員の20%からの回答を得て、会員へのフィードバックを行った。 ・入会のインセンティブとなる、「NACS-J市民カレッジ」を開講。各回満席となる人気講座となった。	・個人、企業、ブランドの3ユニット制で広報ミーティングを月1回開催。 ・外部専門家の協力を得て、キャッチコピー「自然のちからで明日をひらく」を作成。ロゴ制作に着手。 ・NACS-Jのブランドイメージの再構築、主な事業のアピール点を抽出。認知度向上の広報手法の開発。 ・既存会員のニーズを分析するための会員アンケートの企画調整。 ・寄付謝礼グッズ作成。賛助会員の会員証作成検討。 ・会員特典として会員の大幅割引のあるセミナーの実現。NACS-Jのオープンカレッジ、NACS-J市民カレッジで、「生物多様性入門編」「企業と生物多様性」「お酒と生物多様性」を企画・実施。（別表6）



▲ガイドブック『ココからはじめる生物多様性地域戦略 地方自治体・実践事例集』



▲ふれあい調査（宮城県登米市）



▲UNDB-J オフィシャル WEB サイト



▲エコプロダクツ展での UNDB-J 出展（生物多様性の本箱）



▲NACS-J 市民カレッジ #1「いま知りたい、生物多様性」



▲NACS-J 市民カレッジ #2「生物多様性で企業はもっと強くなる」



▲NACS-J 市民カレッジ #3「酒と肴から、日本の自然が見えてくる！」



▲エコプロダクツ展、GTF@ 新宿御苑出展



▲日本経済新聞 12月27日の全面広告

◆保護・研究事業

2013 年度の目標	2013 年度の成果
・国土強靱化計画に生物多様性の観点から対峙する。 ・保護問題への取り組み体制を強化する。新規または突発的な保護問題に対応できる体制をつくる。 ・個々の事業（＊）で積み重ねてきた情報を有機的につなぎ、地域の状況に合わせた戦略行動計画に着手、実行し、政策に着実に反映する。 （＊）モニタリング 1000 の市民参加型調査手法のノウハウやデータ、ネットワーク。SISPA の情報活用基盤、総合事業（綾プロ）、COP10	・東北沿岸の防潮堤問題に関するシンポジウムを関係 NGO と開催して、世論づくりや政府の計画見直しのきっかけづくりができた。沖縄県・辺野古のサンゴ礁の埋め立て問題を通じて、環境アセスメント法や公有水面埋立法の不備を明らかにした。沖縄県名護市嘉陽海岸で、生態系配慮型（セットバック方式など）護岸の実現に、地元団体と第一歩を築いた。国土強靱化基本法に対して声明を発表した。 ・保護問題対応の体制を強化した。ラムサール条約中池見湿地の北陸新幹線計画や、千葉県そうふけっばらのニュータウン開発計画等について世論を盛り上げることができた。 ・国内の保護地域の課題と方向性を示した『保護地域アトラス』を発行し、国の保護地域管理カテゴリーの見直しにつなげることができた。また「民間保護地域」の重要性や海洋保護区の課題について、国際会議で発信した。 ・生物多様性の道プロジェクトの一環として、宮崎県綾町・千葉県流山市等の地域戦略や、中池見湿地等の重要地域の保全行動計画作りを進めることができた。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1	現場の保護問題解決	【緊急保護対応】 ・中池見湿地の開発計画について、事業者の情報公開を実現、国とも協力して国際条約全体の問題に引き上げて、世論形成と交渉の場作りができた。 ・リニア中央新幹線の問題点を指摘することができた。 ・種の保存法改正で「2020 年までに国内希少種を 300 種新規指定する」など意欲的な目標が附帯決議に明記された。オオタカの指定解除に関して課題を知らせることができた。	・中池見湿地の北陸新幹線計画について、事業者が設置した事後調査委員会の透明性を求める意見書を提出し、地元市民団体の意見書提出を支援した。問題解決のため事業者、国、県、市と直接交渉を行った。IUCN 地域理事やラムサール条約事務局長らの来日を働きかけ、現地視察や協力要請の機会をつくった。 ・リニア中央新幹線について、院内集会や地域での勉強会に参画し、問題点を指摘した。 ・種の保存法に関して関係省庁や国会に対し、法改正の際の目標を上方修正するようロビーイングを行った。 ・緊急シンポジウム「オオタカをどうするか」を開催し、環境省・専門家・NGO が一堂に会して議論する機会をつくった。主催：NACS-J、日本造園学会 生態工学研究委員会。（10 月・東京） ・会員等から寄せられる自然保護の相談事に対応する体制を強化した。
2		【保護地域情報研究（SISPA）】 ・環境省と林野庁による、IUCN 保護地域管理カテゴリーの見直し作業への取り組みにつなげることができた。 ・日本の保護地域の現状に関し、広く一般の方に解説できる資料をつくることができた。	・『日本の保護地域アトラス』（日本語版・英語版）を発刊し、第 1 回東アジア国立公園会議において英語版を配布し、口頭発表を行った。
3		【東日本海岸】 ・国の巨大防潮堤計画の環境面の問題を指摘し、シンポジウムを地元 NPO と共催して世論づくりや政府の計画見直しのきっかけをつくった。 ・復興事業で生物多様性に配慮するよう提言する際の、山から海の自然の連続性についての独自データを得ることができた。	・「防潮堤まつり～未来の海辺に何を残すか～」を NPO 法人森は海の恋人との共催で実施した。（9 月、会場：モンベル品川店） ・2012 年度に実施した調査地点のうち、気仙沼市西舞根地区と南三陸町戸倉地区の集水域に注目し、山から海に至る自然の連続性を把握するため、植生調査、水環境・水生昆虫調査、アマモ場調査を実施した。（地球環境基金特別助成事業） ・「南三陸町を見つめ、未来を語るフォーラム」実行委員会に参画し、復興事業への自然環境への影響を検証した調査結果を報告した。（3 月）
4	重点テーマ「海」	【サンゴ礁守ろうキャンペーン】 ・辺野古のサンゴ礁の埋め立て問題を通じて、環境アセスメント法や公有水面埋め立て法の不備を明らかにすることができた。 ・沖縄県嘉陽にて生態系配慮型（セットバック方式）の護岸作りの実現へ、地元団体と第一歩を築いた。	・辺野古のサンゴ礁の埋め立て手続きに対して書類を精査し、課題を明らかにし、議員への説明、メディアや講演の機会などを通じて周知した。公有水面埋立法の手続きとしての意見提出を広く呼び掛け、会員はじめとする全国約 800 通の意見を取りまとめて沖縄県に提出した（7 月）。 ・辺野古をはじめとするサンゴ礁生態系保護に重要な課題に意見書を提出した（別表 1 参照）。 ・名護市嘉陽で砂浜調査を専門家・市民の協力を得て実施し、セットバック方式の護岸建設による影響を測る独自データを得た。（コンサベーションアライアンス助成事業） ・2012 年度にまとめた海洋保護区への提言を周知する機会をつくり、国際会議等で発表した。（9 月・東アジア国立公園会議サイドイベントほか）
5	里やま保全研究	【モニタリングサイト 1000 里地調査】 ・次の 5 年間の全国調査体制を構築できた。 ・長期調査の実現にむけた人材育成プログラムを新たに開始できた。 ・開発計画の撤回や外来種の防除計画策定などに調査データを活用できた。	（環境省受託） ・調査講習会を全国で 17 回開催した。 ・関西初の全国サイト間交流会を開催し（11 月）、新たなアクションプランを作るとともに、複数博物館と連携した「調査能力向上研修プログラム」を開始した。 ・コアサイト 4 カ所での農道建設・新幹線建設・都市計画等の開発問題やアライグマ侵入などに、地元団体と協力して対応した。
6		【市民調査普及】 ・国内での市民調査・市民科学の分野において NACS-J のイニシアチブを発揮できた。	・生きもの情報館の運営は現状維持となった。 ・地球規模の生物多様性観測ネットワーク（J-BON）や市民科学研究会など他団体との連携協力体制を築いた。 ・日本生態学会大会で「市民科学」をテーマとしたシンポジウムを開催（3 月）。



▲「そうふけっぱら」何が奇跡？見てみよう現場ツアー



▲IUCN 理事を招き、地元団体の案内で中池見を現地視察



▲防潮堤まつり／モンベル品川店の協力を得て、計画されている巨大防潮堤の高さをアピール



▲東日本海岸／地元の方と情報交換・調査打ち合わせ



▲モニタリングサイト 1000 里地調査／全国で講習会を開催



▲『日本の保護地域アトラス』日本語版・英語版を発刊



▲沖縄・嘉陽砂浜調査



▲NACS-J に届けられた公有水面埋立に対する意見書 787 通を沖縄県に。

	テーマ	2013 成果	業務内容
7	地域協働型プロジェクトの推進 (生物多様性保全のための、新しい管理方法の試行・実践)	【赤谷プロジェクト】 ・赤谷プロジェクトの10年間の成果をまとめ、発信することができた。	(林野庁受託) ・モニタリング会議、植生・猛禽・ほ乳類の各調査とWGの運営を行った。 ・自然林復元のステップを明文化した。
8		・イヌワシの生息環境を向上させる森林管理手法を開発する基本計画を策定することができた。 ・赤谷エリアが国内最大の生産の場だったカスタネットをエリア内の木材で復活させ、プロジェクトの広報ツールをつくることができた。	(自主) ・赤谷プロジェクトの総合事務局を引き続き担当した。 ・10年間の成果をまとめ、『赤谷プロジェクトの歩みー第1期ー』として発行、web公開した。10周年記念フィールドセミナーを開催した(3回シリーズ、9月・10月・12月)。10周年記念シンポジウム「自然をいかした地域づくりの展望～赤谷プロジェクト次の10年」を開催した(3月・東京農工大学)。 ・赤谷プロジェクトを紹介する講演、企画展などに協力した。(7月・ニコプラザ仙台「赤谷ノートの世界」ほか) ・赤谷エリア内の木材でできたカスタネットを、関係者に働きかけて復活させた。カスタネットは、地元小学校に寄贈したほか、広報イベントで活用した。(株)資生堂・社会貢献活動「花椿基金」支援事業) ・地域づくりWGで、森の魅力を発信するマップの2作目として季節別マップ「三国山のお花畑を歩こう！(7月中旬)」を制作し、観光業者を交えて活用を検討した。 ・茂倉沢の溪流環境復元のこれまでの成果を整理した。
9		【綾プロジェクト／照葉樹林研究】 ・綾町の生物多様性地域戦略策定を通じて“市民参加の地域戦略策定”のモデル事例を作ることができた。 ・大隅半島の自治体の生物多様性地域戦略策定への関心を高めることができた。 ・屋久島原生自然環境保全地域の超長期モニタリング調査を継続できた。標高別の森林のシカの影響や個体群の変動を明らかにできた。	・綾生物多様性地域戦略「命ゆたかな綾づくりプラン」の策定に向けて全町民対象のふれあいアンケート調査、生物相調査のとりまとめ、研修会を実施した。(経団連自然保護助成基金、綾町委託) ・大隅半島鹿屋市で、自治体職員向け生物多様性地域戦略シンポジウムを鹿児島県、鹿屋市と共催で開催した。(1月、地球環境基金) ・屋久島原生自然環境保全地域の、30年目のモニタリング調査を実施した。(環境省委託) ・来年度開催される照葉樹林サミット in 屋久島に向けて準備を行った。
10		【小笠原／世界遺産地域のエコツーリズムモデルづくり】 ・南島のモニタリングの再スタートとなる、今後の調査設計案ができた。	・南島の今後10年を見据えたモニタリングを提案し、初年度の調査を実施した。(東京都受託) ・全島のエコツーリズム実現のための調査研究を林野庁に提案し、専門家委員として事業に参画した。
11	愛知目標基盤整備	【IUCN事務局運営】 ・愛知ターゲットに関わる団体の活動を広報する場を増やすことができた。 ・にじゅうまるプロジェクトの3年間の成果を振り返り、愛知ターゲットの進捗を市民が議論する場を作ることができた。	・40団体以上の活動の広報を行った(丸の内さえずり館、エコプロダクツ2013ほか)。 ・にじゅうまるプロジェクト拡大のために、ワークショップやセミナー等を開催、『愛知ターゲットガイド』を制作した(2版含め、1700部)。 ・にじゅうまるパートナーズ会合を開催し、参加団体によって愛知ターゲットの進捗状況を評価した。(2月・大阪)
12		【国際情報収集業務】 ・IUCNや英国等の生物多様性に関する最新動向を把握し、成果を2014年度以降の事業計画に組み込んだ。	・民有地の保護地域施策の事例(欧州／生物多様性条約関連会議)について情報収集を行った。(環境省請負)

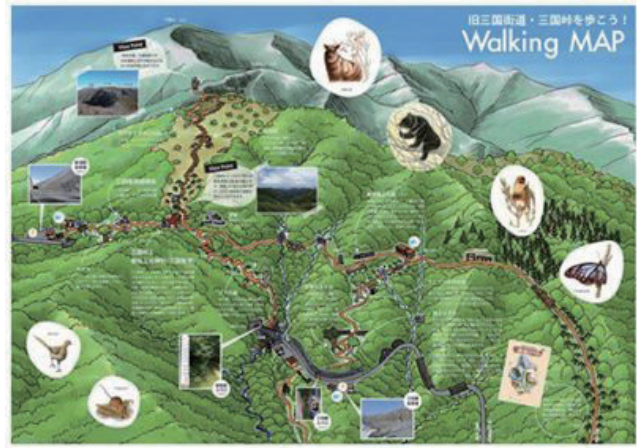
◆保護交渉事業

2013 年度の目標	2013 年度の成果
・保護の具体化・前進の確実な獲得。	下記の通り保護を進めることができた。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1	保護交渉	①林野庁直轄で実施される宮城海岸防災林計画案に対し、林野庁と交渉し問題解決協議会を仙台市にて開催。両立案に変更する確約と地域研究者の入る調整検討会の設置を主張し、これらを実現。調整検討会の運営について、地域研究者を援助中。 ②林野庁に働きかけ、中部森林管理局に木曽地方の温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた「専門家会議」と「設定検討会」を組織。二つの会議体の中で設定案を提案し、残存した木曽ヒノキ自然林を大きく囲む形で新規の保護林化を実現。 ③環境省の風力・地熱発電計画のアセスメント制度と情報整備事業に対し、保護地域内の重要地域及び大型希少猛禽類(イヌワシ、クマタカ、オジロワシ、オオワシ他)の繁殖地域を特定し、調査方法の提案、計画地からの除外、環境省によるアセスメント支援データベースへの組み込みを実現。 ④関東、九州、北海道の各森林管理局に働きかけ、希少種生息地(イヌワシ・クマタカ生息地18箇所、奄美・徳之島の重要地域、日高カンラン岩採掘地)における施業計画の改善、保護林モニタリング結果を使った既設保護林と緑の回廊の問題整理(関東森林管理局)、赤谷と綾プロジェクトの今後の展開について協議。これらの結果、当該地域の保護策が講じられるとともに、2014年度から林野庁として保護林と他の保全制度の体系の抜本的見直しを行うことになった。	①国の施策への有効な多様性保全施策の組み込み(土地利用施策の改良誘導)・・・特に、宮城海岸防災林計画での希少種生息環境の保護と研究者によるモニタリング・サイトの組み込み。 ②保護地域化困難地への保護地域化(新設、拡大)・・・特に、長野・岐阜県境のヒノキ自然林を中心とした温帯針葉樹林の保護林化。 ③国立公園・自然環境保全地域・保護林の一元管理方策の進展・・・特に、環境省による再生可能エネルギー(風力、地熱)の立地検討に当たっての重要自然地域回避策の提案。 ④国有林への多様性保全型施策の組み込み・・・特に、希少種生息地の保全と保護林モニタリング結果の活用(関東森林管理局)、及び国有林モデル・プロジェクトの有効性向上(赤谷、綾、その他)。 ⑤尾瀬の課題への恒常的な対処、及び自然保護に関する突発的な援助要請に対応。 ⑥公務員に対する、多様性保全と問題解決に関する研修を実施。



▲「旧三国街道・三国峠を歩こう！」マップ（右写真）を使った現地学習会



▲赤谷エリアの木材でできたカスネット



▲ Changbai Mountain International Ecological Forum で 綾ユネスコエコパークを紹介



▲生物多様性条約第12回締約国会議（COP12）準備会合 SBSTTA17 に出席



▲『愛知ターゲットガイド』を IUCN-J として発刊。



▲名取～仙台～北相馬海岸に残存する後背湿地の保全



▲井出小路山を中心に残存する木曽ヒノキ自然林。保護林は約 16,500ha の範囲。

◆教育普及事業

2013 年度の目標	2013 年度の成果
・全国の指導員の活動を活気づける。 ・若い世代へのアプローチを積極的に行い取り込む。 ・普及事業と各部事業との連携を有機的に深める。	・指導員講習会で若い世代の受講者数を増やすことができた。 ・東北での講習会により、復興の核となる人材養成をはじめた。 ・一斉観察会や自然しらべ等が効果的に指導員の活動の支援となった。 ・企業連携により、企業人への環境教育の取り組みを進めることができた。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1		【自然観察指導員講習会】 ・市民団体・自治体・企業との共催により、14 回の講習会を開催し、671 名の指導員を養成した（別表 3・初回以降総登録者数 27,263 名）。講習会受講率を昨年度より 5% 向上させ 90% とし、新規入会者 597 名を獲得した。 ・1 泊 2 日プログラムで実施し、従来の 2 泊 3 日では獲得しにくかった若い世代、特に 20 代以下の受講者数を 1.5 倍にすることができた。 ・生物多様性地域戦略の策定や、ユネスコパークやラムサール登録を目指す自治体との共催、復興支援の一環として企業の協賛による講習会などを開拓した。 ・講師との連絡や会議等を通して、1 泊 2 日プログラムの成果を共有した。	・自然観察指導員講習会を 14 回開催（別表 3）、NACS-J 講師会議を 1 回開催 ・各県指導員連絡会や関係団体への受講者獲得の協力依頼 ・自治体や企業など 新規共催先獲得のための広報
2	自然観察指導員の養成	【指導員活動支援】 ・ミクロな視点を重視した全国一斉自然観察会を全国の指導員・会員に呼びかけ、テーマに即した自然観察会が全国 50 回開催された。会報でも観察ポイントの情報提供を行い、指導員の指導力の向上と活動の活性に貢献した。 ・指導員向けメールマガジンを毎月配信し、指導員の活動に役立つ情報の提供をした。また指導員連絡会からの相談や依頼に、資料及び情報を提供し活動を支援した。 ・会員アンケートの指導員からの回答を分析し、要望や活動実態を調査した。 ・Facebook に講習会・研修会開催報告等をアップし、指導員との関係強化に取り組んだ。 ・指導員養成ワーキンググループを開催し、1 泊 2 日の講習会のフォローのための研修会や ESD（持続可能な開発のための教育）と自然観察指導員の役割等について検討した。	・指導員連絡会の活動支援と情報提供・交換 ・会員アンケート指導員分の整理と分析 ・パンフレット作成や配布、一般紙への掲載などの指導員制度の広報 ・新指導員への連絡会入会案内強化やメールでの情報発信 ・メールマガジン「しどういん徒然草」配信 ・全国一斉観察会「春の自然に大接近！」の実施
3		【指導員研修会】 ・「リスクマネジメント研修会」を自然観察指導員三重連絡会と共催し、野外での安全管理を研修する場を提供した。 ・「ネイチャ・フィーリング研修会」を南アルプス市との共催と NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会との共催で二回開催し、さまざまな参加者とのコミュニケーションの取り方について学ぶ場を提供した。 ・11 月に宮城県南三陸町で開催したフォローアップとして冊子「磯のガイドブック」を共同発行し、「海藻おしぼりづくりで三陸の海を知る」研修会を 3 月に開催しテキストとして活用した。 ・新宿御苑みどりフェスタにてネイチャ・フィーリング自然観察会を 40 名のリーダーと協力して開催した結果、約 70 名の一般参加があった。ネイチャ・フィーリングの下見兼勉強会も開催し、指導員に研修の機会を提供した。	・自然観察指導員研修会の企画・共催により計 4 回実施。（別表 4） ・新宿御苑みどりフェスタに関連し、ネイチャ・フィーリングの勉強会と自然観察会を開催。
4		【自然保護セミナー・自然観察の道具箱】 ・子育て世代を対象のセミナーを夏季に 2 回企画・開催し、指導者向けに観察会を向上するテーマを冬季には 2 回企画した（悪天候により 1 回中止）。東京都公園協会と共催し、自然観察の普及に貢献した。	・一般対象「自然保護セミナー」・指導員対象「自然観察の道具箱」計 4 回を企画した。（別表 5）
5	一般に向けた環境教育	【自然しらべ 2013】 ・水辺の自然環境を知る手がかりとしてカメをテーマに自然しらべ実施、参加者数のべ 3,512 名、調査記録 10,032 四分、観察地点のべ 1,474 カ所。協賛企業を 1 社増やすことができ、「カメ教室」を 4 回実施、成果報告会を都内で実施した。雑誌 6 誌、新聞やテレビ等マスメディアで節目ごとに報道された。結果は提言とともに報告書にまとめ、環境省との外来種問題について意見交換を行った。	・市民参加型環境教育プログラム「自然しらべ 2013 日本のカメさがし！」実施（期間 5/1～10/31）
6		【自然観察路コンクール】 ・応募件数は全部で 310 点、小学生・中学生・高校生の各部門でそれぞれ最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、佳作 10 点を選出した。30 周年を記念して、過去作品が横断的に検索可能な WEB サイトを作成し、作品の活用性と広報力を高めた。	・「第 30 回わたしの自然観察路コンクール」の募集、審査、決定等の実施 ・30 周年記念で、新しいウェブサイトの作成、公開
7	観察会を通じた企業との関係づくり	【企業との連携】 ・賛助会員や協賛・寄付などの支援企業 6 社と連携し、社員や一般親子向けの観察会やネイチャーツアーを企画・実施し、のべ 294 名が参加。企画を通じて、生物多様性保全の普及啓発を広く図り、自然観察指導員講習会などへの参加を動機づけた。 ・オフィスビルの緑地におけるモニタリングと生物多様性保全のための管理について、コンサルタントを行い鳥類調査の結果をまとめた。 ・企業連携の取り組みが、各社の CSR レポートでの掲載や WEB 広報に紹介される関係を築いた。	・企業への自然観察会企画の提案、実施、依頼対応（年間 8 回） ・企業緑地での鳥類モニタリング指導、まとめ
8		【その他教育普及】 ・一般市民向けのシンポジウムやセミナー、各地区連絡会の総会や勉強会、講師派遣・紹介の依頼等に積極的に対応し、NACS-J の進める自然保護活動の普及、各種事業への参加の呼びかけを行った。 ・展示会等の催事にて NACS-J の活動を紹介し、自然保護の重要性を伝えた。	・外部からの講師・委員の派遣・紹介、後援依頼・原稿執筆依頼対応 ・外部イベントでの展示や各種パンフの配布等



▲自然観察指導員講習会 野外実習の一コマ



▲2013年度は671名の自然観察指導員が誕生



▲ソニー(株) 大崎オフィスビル緑地で社員参加の鳥類調査



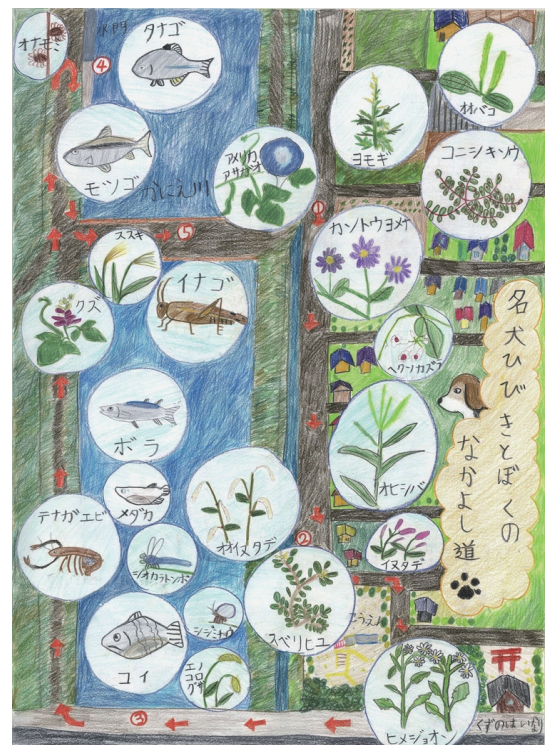
▲海藻おしばから三陸の海を知る研修会（宮城県南三陸町）



◀自然しらべ2013「日本のカメさがし！」調査マニュアル



▲カメ教室、亀戸天神にて。

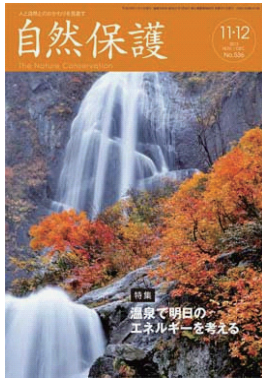
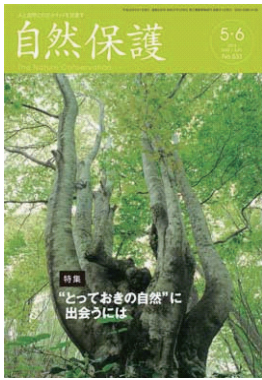


▲第30回自然観察路コンクール 最優秀作品（小学生の部）
「名犬ひびきとぼくのなかよし道」横田雄生（小学2年生）

◆広報編集事業

2013 年度の目標	2013 年度の成果
・メディアを使い分けて NGO ならではの情報発信力を高める。（会報発行は現会員向けに維持。web は予算の増強、フェイスブック、スマホ等新メディア対応も。） ・NACS-J 未接触のユーザーを増やす。（NACS-J ウェブマガジン、UNDB-J 基金を使った総合生物多様性主流化ポータルサイト、ソーシャルメディア）	・生物多様性情報の即応的発信、コンテンツの幅広いジャンルからの発信は継続できた。 ・収入源としては低調だったが、NACS-J の認知度や生物多様性保全活動の認知度の向上に貢献した。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1	NGO の強みを活かす情報発信	・会報『自然保護』6 号を各約 15000 部、遅滞なく編集・発行。製作費・発送費を削減しながら、オールカラー化を果たし、読者満足度を高めた。特に、日本酒から生物多様性を読み解く特集「酒と肴と生物多様性」が好評を得た。 【特集】 ・“とっておきの自然”に出会うには（第 533 号、2013 年 5・6 月号） ・ここまでのいいのか？防潮堤計画（第 534 号、2013 年 7・8 月号） ・酒と肴と風土 t（第 535 号、2013 年 9・10 月号） ・温泉で明日のエネルギーを考える（第 536 号、2013 年 11・12 月号） ・暮らしの中にある自然保護（第 537 号、2014 年 1・2 月号） ・国土強靱化法がやってきた（第 538 号、2014 年 3・4 月号） ・生物多様性の道プロジェクト「地域戦略」支援のため、群馬県中之条町の生物多様性地域戦略用資料「群馬・鉄山」の調査報告制作受託。 ・NACS-JWEB サイトは昨年比でユーザーセッション数が 23%増の 34 万 1580 人、ページビューが 9% 増の 809,832 となった。twitter フォロワーが約 2800 人、Facebook いいね！が約 2500 人となった。 ・NACS-J のオフィシャルオンラインショップ、「しぜんもん」の Yahoo! 店を構築開店。本店として、NACS-JWEB サイト上の EC ショップの設計構築にあたる。 ・生物多様性情報の発信力支援のため、国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）のウェブサイト発信を引き続き担当。	■記事制作（会報・WEB 共通） ・自然保護の専門性を活かしながら、一般読者の興味を引く特集を制作（会報・web 共通） ・会員専用記事、WEB マガジン記事など読み手のニーズを踏まえた記事構成と編集・執筆技術の向上 ・雑誌編集の外部エキスパートと特集の切り口や展開を検討する会報ワーキンググループを開催（年 6 回） ・会報特集にからめた会員のつどいセミナー（N カレ）を開催。（「酒と肴から、日本の自然が見えてくる！」） ■会報発行（印刷・発送） ・会員向け情報誌の遅滞ない発行 ・年 6 回（隔月）発行、36 頁×5 号 44 頁×1 号 ・専門性を活かした広告営業 ■オフィシャル WEB サイト運用 ・オフィシャルサイト…組織情報のディスクロージャー、活動報告、参加・寄付の呼びかけ。 ・twitter、Facebook、メルマガ…サイト情報の発信・オフィシャルサイトへの誘導。 ・サーバー管理、HTML 外注・システム改善マネジメント ■NACS-J ウェブマガジン ・一般向けにタッチングポイントを増やす、NACS-J ウェブマガジンの構築。 ・資料集 / フィールドガイド / 会報など既存資料から今も価値のあるものを発掘し、寄付返礼として記事ごと有償ダウンロードできるしくみづくり。（web 記事課金型寄付システムの導入） ・WEB サイト広告収入の開拓。 ・インターネット有料広告の出稿。 ■国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）の WEB 発信（生物多様性の道プロジェクト一環） ・NACS-J や IUCN-J ウェブサイトほか、NACS-J に集まる生物多様性関連情報の提供と普及を目指し、戦略的な情報展開を提案、運用。
2	NACS-J メディアを通じた企業・団体パートナー拡大	・情報発信業務のサポーターとなる企業等の開拓を試みたが、大きな支援先の獲得には至らなかった。 ・アウトドアディジャパンに出展	・生物多様性保全活動、リサイクル活動等を積極的に行う企業への営業、出展による企業連携



▲会報『自然保護』No.533～538



▲群馬県中之条町「群馬鉄山」調査



▲NACS-J WEB サイト

▼WEB 通販サイト「しぜんもん Yahoo! 店」



▲NACS-J オフィシャル Facebook



▲アウトドアデザイン展 出展

◆管理事業

2013 年度の目標	2013 年度の成果
・他部と協働し、会員・寄付者の満足感を高めることを目指す。 ・Web と連動した新たな収入基盤整備を広報と検討し実現化を進める。	・広報戦略会議と協働して、主に収入基盤整備に努めた。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1	事務局基盤 の整備	【事務局運営】 ・資産運用規程の検討・策定 ・常勤理事・シニアスタッフに関する検討（継続中）	・事務局運営における課題の検討・規程等の諸整備
2		【収入基盤整備】 ■個人会員 ・目標 80 名に対し、118 名が入会（その他の事業による入会者 696 名を除く）。 ・約 12,200 名に対し会員アンケートを実施し、2,355 名から回答を得（回答率 19%）、結果を会報・web サイトに掲載、次年度事業の検討に反映。	・未入会者向け DM の実施 ・ビジターセンター等へのパンフレット定期発送 ・期限切れ会員への再入会呼びかけ DM の実施 ・会員へのアンケート実施
		■団体会員 ・目標 7 口に対し、4 口・4 件が入会（その他の事業による入会 1 口・1 件を除く）。 ・約 230 件に対し会員アンケートを実施し、29 件から回答を得（回答率 19%）、次年度事業の検討に反映。	・パンフレットの作成 ・入会 DM の実施 ・会員アンケートの実施
		■賛助会員（法人特別会員） ・目標 8 口に対し、2 口・2 件入会（各事業による入会 7 口・2 件を除く）。 ・42 件に対し会員アンケートを実施し、15 件から回答を得（回答率 36%）、次年度事業の検討に反映。	・パンフレットの作成 ・入会 DM の実施 ・会員アンケートの実施
		■寄付 ・寄付チラシの配布に対する反響は 301 件・302 万円。 ・寄付企画から寄せられた 25 件・465 万円。 ・募金箱設置から寄せられた寄付は 23 件・23 万円。	・非会員寄付者への DM ・寄付企画、高額寄付、募金箱設置への対応
3	【システム基盤整備】 ウェブマガジンの開設による寄付拡大に備え、寄付データと会員データの照合・取込システムを構築。	Web 寄付拡大に伴う会員管理システムの改訂	
4	【刊行物】 ・3/ 末をもって狼森との通販業務委託を終了。 ・自前での通販体制の整備。	・在庫管理、通販業務等コストの見直し ・会報購読 DM の実施	
5	顕彰事業	【日本自然保護協会沼田真賞】（牧田基金事業） ・3 団体、特別賞 1 名を選出 ・1/25 授賞式・記念講演会 参加者約 80 名	・第 13 回沼田賞の選考および授賞式・記念講演会の開催

◆支援基盤事業

2013 年度の目標	2013 年度の成果
・自由な活動のできる独立した NGO 組織としての支持を入会や寄付につなげる。 ・これまでの協力関係を一層深めた支援方策や基本財産の効果的活用研究を行う。	・会員拡大・寄付拡大とも目標を大きく下回った。 ・資産運用規程を定め、今後の積極的な運用を目指す。

	テーマ	2013 成果	業務内容
1	事務局基盤の整備	【2020 年会員】 ・目標 100 名に対し、34 名（既会員 22 名、新入会 12 名）が登録。 ・専用会員証を発行するとともに、特典として新刊『自然しるべ 2013 カメさがし！報告書』を贈呈。	・愛知目標達成のため、2020 年までの会費＋寄付、計 5 万円をまとめて払う「2020 年会員」を設置し、会報や Web サイトでの案内、入会パンフレットへのチラシ挟み込みによって呼びかけた。
3		【ホスピタリティ会員拡大】 ・目標 500 名に対し、19 名が入会。	・職員等から、これまで NACS-J へのさまざまな支援や協力を得た関係先へ、メールおよび手紙による入会呼びかけを行った。
4		【寄付拡大】 ・いくつかの企業・団体に働きかけたが、獲得には至らなかった。	・在庫管理、通販業務等コストの見直し ・役員らが面識のある企業等に働きかけ、大口寄付の獲得を目指した。
5	顕彰事業	・実施が 1 月開始となったため、今期で収益増の成果をあげることができなかった。	・検討の上、資産運用規程を制定（12 月）。以後積極的な運用を開始。



▲第13回沼田眞賞 受賞者



▲第13回沼田眞賞 授賞式・記念講演会

2020年の子どもたちに自然豊かな未来をプレゼント

2020 年会員 入会キャンペーン

8年分の会費と寄付金をまとめてお支払いいただけませんか。

2020 年、今年生まれた子どもたちは、小学校に入学します。
2020 年、私たちの子どもや孫は、自然豊かな地球の上でくらしているでしょうか？
2020 年は、国際社会が協力して生態系保全に 10 年間取り組みもうと国連が決議した「生物多様性の 10 年」の目標年です。企業・NGO・市民など、あらゆる人がそれぞれの立場で目標を達成するための行動を起こすことが求められています。

NACS-J は 2020 年の目標達成をめざして行動します

- ① サンゴ礁や海岸植物の調査をし、埋め立てやコンクリート護岸による自然破壊に反対します。
- ② 森や湿地など重要な植物の生育地を調査し、保護地域化を働きかけ、健全な自然が保たれる管理方法を提案します。
- ③ 自然観察指導員を育成し、自然の大切さを伝える自然観察会を全国で開きます。
- ④ 全国の会員等と、里やまのモニタリング調査や、問題となっている外来生物の分布調査などを行います。
- ⑤ 地域の生物多様性戦略づくりや保全活動に市民が積極的にかかわれるよう、ワークショップを開いて支援します。



あなたの応援が、自然ゆたかな未来をつくれます。
2020年会員として、当会の活動をご支援ください。



▲2020 年会員 入会案内チラシ

公益法人としての社会責任

●障がいのある方の就労支援

会報『自然保護』や各種刊行物の印刷製本・発送を委託している社会福祉法人 東京コロニーへの継続的な事業協力に対し、社会福祉法人 全国社会福祉協議会、全国社会就労センター協議会より感謝状を受けました。日本自然保護協会の印刷実務を通じて障害のある人が地域で働き・暮らすことのできる支援を続けています。

●事業所の省エネ化

クールビズやウォームビズを心がけ、坂東エネルギー・環境研究所のアドバイスの下、職場内における省エネルギーの意識改革と実践に努めています。

●働きやすい職場づくり・男女共同参画社会への貢献

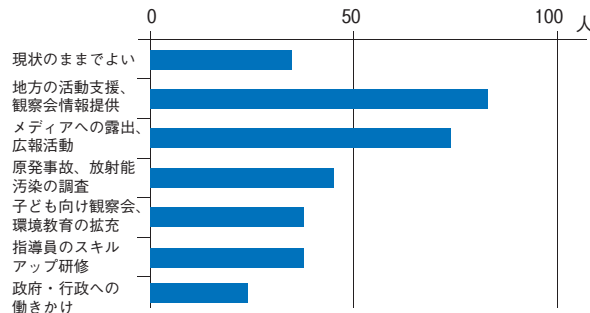
管理職における女性の割合は 3 割を超え、全 25 人の職員うち、今年度は男性は 12 人、女性が 13 人の構成でした。子育て世代の就労継続に配慮し、男性職員の育児休業や育児短時間勤務の取得をしやすい職場環境の整備に努めています。

個人会員アンケート結果

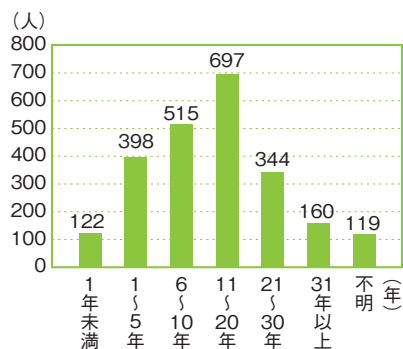
NACS-J 個人会員が何を期待して入会し会員を継続しているのか、また今後の自然保護活動の方向性を探る資料とするため、会報『自然保護』9/10月号（No.535）にアンケートを同封して調査しました。回答総数は、計 2,355 名。全体の約 2 割に相当する数となりました。回答者の傾向として、年齢層では 70～80 代がやや多い傾向が見られたほかは、男女比（4：1）、居住地域ともに会員全体の比率とほぼ同様になりました。

（以下、会報 2014 年 1/2 月号（No.537）と 3/4 月号（No.538）に掲載した結果報告より、一部抜粋したものです。）

Q.NACS-Jにさらに力を入れてほしいことは？



●会員になって何年ですか？



●会員になった理由は？

（選択式 複数回答）

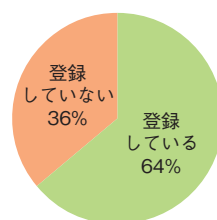
	(件)
自然保護活動を支援するため	1486
自然保護活動に参加するため	1020
自然保護の最新情報を得るため	1014
自然観察指導員になるため	995
自然かんさつ会に参加するため	337
知人に勧められて	180
その他	136
合計	5168

●会員を継続している理由は？

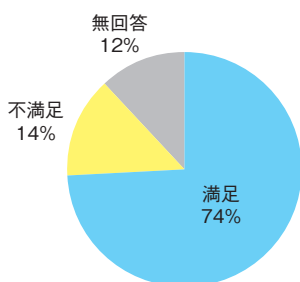
（選択式 複数回答）

	(件)
活動に共感しているから	1748
自然観察スキルを高めたいから	1010
会報『自然保護』が読めるから	997
自然観察指導員を続けたいから	877
知人のつき合い	56
税制上の優遇措置があるから	36
その他	126
合計	4850

●自然観察指導員に登録していますか？

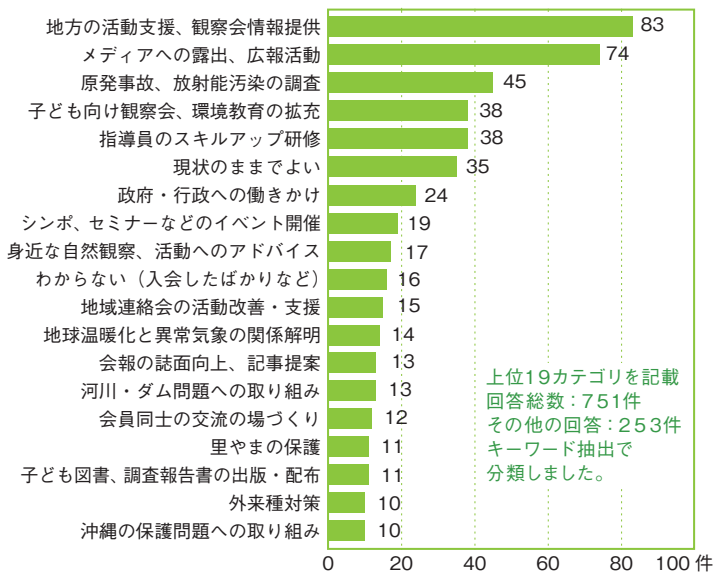


●NACS-Jの活動に満足していますか？



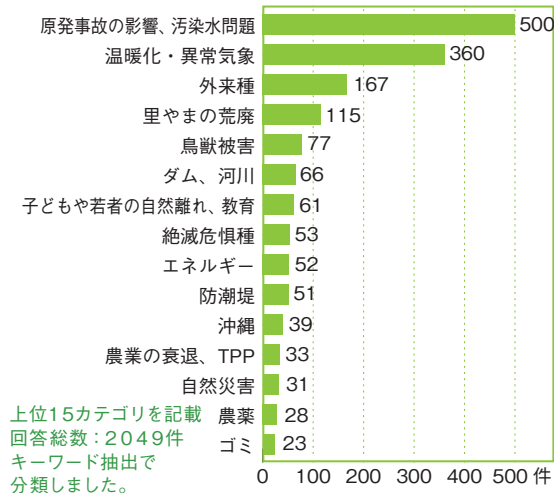
一番多かったのは「地方の活動をもっと支援してほしい。観察会の情報を紹介してほしい」というご意見でした。また、「もっとメディアに出てNACS-Jの知名度を上げ、広報活動をしてほしい」といったご意見も多くありました。広報力を強化していきます。

●さらに力を入れて欲しい活動は？（自由記述式 複数回答）



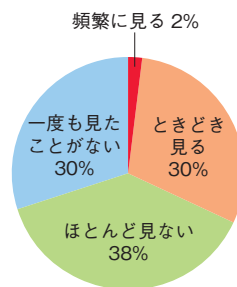
上位19カテゴリを記載
回答総数：751件
その他の回答：253件
キーワード抽出で
分類しました。

● 自然環境にかかわる問題で、
今最も気にしていることは？（自由記述式 複数回答）



「原発事故の影響、汚染水の問題」「地球温暖化、異常気象」への関心が目立ちました。次いで「外来種」「里山の荒廃」の問題。こういった問題に対して、NACS-Jに何を期待するかについては、調査・モニタリング、啓蒙活動、広報・PR、国・行政への働きかけ、政策提言、などのご意見がありました。

● NACS-Jのウェブサイトを見ることは？

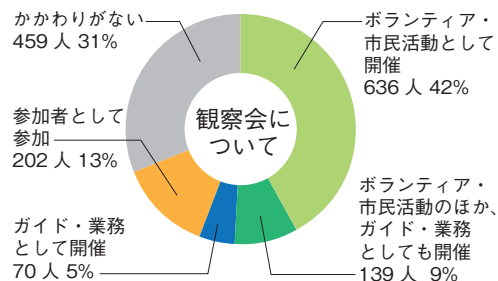


ほとんど見ない、見たことがない人が7割に上り、情報発信のさらなる工夫の必要性を再認識しました。ウェブサイトもブログやfacebookも頻繁に更新していますので、ぜひご覧ください！

自然観察指導員編

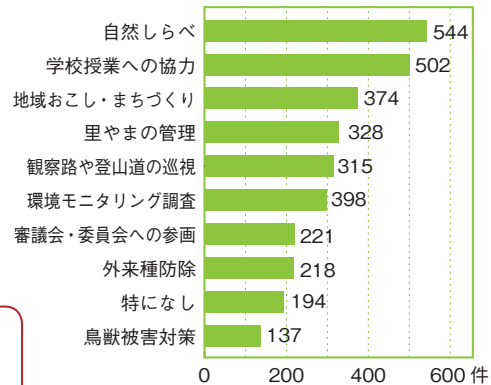
（回答総数 1549名）

● 最近の自然観察会の活動状況は？（選択式）

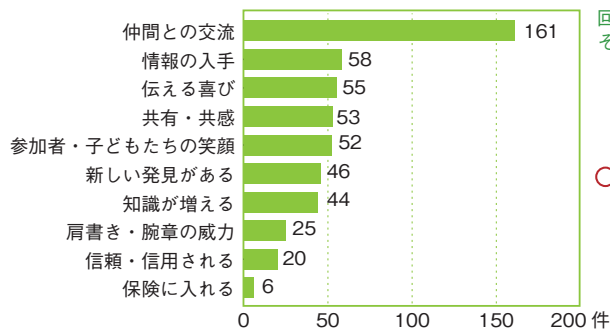


過半数の方が自ら観察会を開催し、そのうち9割以上の方はボランティアや市民活動として活動されているとお答えいただきました。

● 自然観察会以外でどんな活動をしていますか？（選択式 複数回答）



● 自然観察指導員活動のメリット・やりがいは？（自由記述式 複数回答）



多くの方が仲間同士の交流をやりがいに感じているとお答えいただきました。活動上の課題としては「時間がないこと」や、「活動者・参加者の高齢化」「自分自身のスキルの向上」が上位に挙がりました。活動支援形態は日帰り研修会や県内・地域ごとの交流会が利用しやすいというお声が目立ちました。

別表 1. 意見書・要望書等の提出（協会代表者名で提出、カッコ内は提出日、提出先／連名団体）

- ・海洋基本計画に対する意見（4/7）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認申請書の補正書に関する要望書～市民と社会に補正書を公開してください～（6/7、沖縄県知事／沖縄・生物多様性市民ネットワークとの連名）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認申請書の形式審査終了について（6/28、沖縄県知事・沖縄防衛局長）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認願書に対する利害関係者としての意見（7/2、沖縄県知事）
- ・「那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書に対する環境大臣意見・助言」への意見書（8/7、国土交通大臣）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続きに関する要望書（8/12、沖縄県知事／沖縄・生物多様性市民ネットワークほか 8 団体と連名）
- ・那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書の公表に関する要望書（8/29、沖縄県知事・環境大臣・国土交通大臣・内閣府沖縄総合事務局／沖縄・生物多様性市民ネットワークほか 3 団体と連名）
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続き」に関する要望書（9/13、沖縄県知事）
- ・慶良間諸島国立公園の指定に関する意見（9/20、環境大臣）
- ・沖縄島周辺での海砂採取に関する陳情書（9/26、沖縄県議会）
- ・山陰海岸国立公園の公園区域及び公園計画変更への意見（10/7、環境大臣）
- ・「那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書（補正後）」への意見書（10/8、国土交通大臣・内閣府沖縄総合事務局長）
- ・リニア中央新幹線環境影響評価準備書に対する環境保全の立場からの意見（11/4、東海旅客鉄道㈱）
- ・那覇空港滑走路増設事業に係る公有水面埋立承認手続きの利害関係人としての意見（11/7、沖縄県知事）
- ・環境省・重要海域の抽出に対する意見（11/30、環境大臣）
- ・濃飛横断自動車道計画案（リニア関連工区）への要望書（12/25、岐阜県知事・中津川市長）
- ・中池見湿地付近環境事後調査検討委員会に対する要望書（1/31、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構／NPO 法人ウエットランド中池見、NPO 法人中池見ねっと、NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本との連名）
- ・種の保存法政令指定種アユモドキ生息地における亀岡市都市計画及び京都スタジアムの計画に対する要望書（2/6、京都府知事・亀岡市長）
- ・四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全対策（原案）に関する意見（2/24、四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会 事務局（NEXCO 西日本 四国支社）／NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本ほか 2 団体との連名）

別表 2. 声明・パブリックコメント等の提出（主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日、提出先）

- ・富士山の世界遺産登録への ICOMOS（国際記念物遺跡会議）勧告にあたってのコメント（5/1）
- ・沖縄県環境影響評価条例施行規則の改正の骨子案に対する意見（5/12、沖縄県）
- ・「沖縄県赤土等流出防止対策基本計画（案）」に対する意見（5/26、沖縄県）
- ・辺野古サンゴ礁に係る公有水面埋立承認申請書の補正書が提出されたことに対する緊急声明（5/31）
- ・「種の保存法」改正にあたってのコメント／2020 年までに 300 種追加などの意欲的な目標は、「日本の生物多様性保全の歴史の転換点」である～一方で「種の保存法」の抜本改正は 3 年後に先送り～（6/4）
- ・「三陸北沿岸海岸保全基本計画」の変更に関する意見（6/17、岩手県）
- ・オオタカの国内希少野生動植物種（種の保存法）からの指定解除の検討に関する意見（6/25、環境省）
- ・2020 年、愛知目標の達成と自然共生型のオリンピックの実現に向けた緊急声明（9/11）
- ・「サンバの保護の進め方（案）」に対する意見（9/22、環境省）
- ・有明海再生のために諫早湾干拓・潮受け堤防水門の常時開門を求める共同声明（11/13、NPO 法人ラムサール・ネットワーク・日本 WWF ジャパン・日本野鳥の会との連名）
- ・「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」及び「国土強靱化政策大綱」に対する声明（12/26）
- ・（諫早湾干拓事業における潮受け堤防排水門における）国の開門判決不履行に対する声明（12/26）
- ・米軍普天間飛行場の名護市辺野古への埋め立て申請承認に対する抗議声明（12/27）
- ・新しい「エネルギー基本計画」策定に向けたご意見の募集について（1/6、資源エネルギー庁）
- ・名古屋議定書に係る国内措置のあり方検討会報告書（案）に関する意見（1/24、環境省）
- ・千葉ニュータウン 21 住区の保全を求めた要望書への回答に対する抗議声明（1/31、亀成川を愛する会との連名）
- ・生物多様性国家戦略 2012-2020 の実施状況の点検結果（案）に対する意見（2/20、環境省）
- ・生物多様性条約第 5 回国別報告書（案）に関する意見（2/20、環境省）
- ・「絶滅のおそれのある野生生物種の保全戦略（案）」に対する意見（3/2、環境省）

別表 3. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
472	5/25 ～ 26	東京都	高尾の森わくわくビレッジ	NACS-J 自然観察指導員東京連絡会 (NACOT)・五洋建設株式会社	63
473	6/15 ～ 16	北海道	恵庭市青少年研修センター	北海道自然観察協議会 (NOC)	38
474	7/13 ～ 14	福島県	森林の分校ふざわ	只見町	29
475	8/24 ～ 25	福岡県	福岡県立社会教育総合センター	福岡県自然観察指導員連絡協議会 (ナイス福岡)	43
476	8/31 ～ 9/1	兵庫県	いこいの村はりま	加西市	53
477	9/7 ～ 8	愛知県	犬山国際ユースホテル	愛知県	49
478	9/28 ～ 29	群馬県	中之条町六合柔剣道場	中之条町	40
479	10/12 ～ 13	広島県	高原の家七塚	広島県自然観察指導員連絡会 (広島自然観察会)	59
480	10/19 ～ 20	新潟県	国立妙高青少年自然の家	新潟県自然観察指導員の会	50
481	11/2 ～ 3	宮崎県	綾てるはの森の宿	綾町	32
482	11/16 ～ 17	愛媛県	休暇村瀬戸内東予	愛媛県	64
483	7/27 ～ 28	東京都	かんぼの宿青梅		58
484	11/9 ～ 10	宮城県	宮城県志津川自然の家	協賛：株式会社日清製粉グループ本社	35
485	11/23 ～ 24	神奈川県	富士ゼロックス塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	58

別表 4. NACS-J 自然観察指導員研修会

NO	開催日	開催地	テーマと会場	共催団体	参加者数
154	7/20 ～ 21	山梨県	「ネイチャ・フィーリング」／櫛形山県民の森ウッドビレッジ伊那ヶ湖	南アルプス市	22
155	9/14 ～ 15	三重県	「リスクマネジメント」／津市青少年野外活動センター	自然観察指導員三重連絡会	13
156	12/7 ～ 8	大阪府	「ネイチャ・フィーリング」／吹田市自然体験交流センター	NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会	23
157	3/21	岩手県	「海藻おしばづくりで三陸の海を知る」／宮城県志津川自然の家	資金提供：荏原グリーン基金	11

別表 5. 自然保護セミナー・セミナー「観察会の道具箱」

開催日	テーマと会場	講師	参加者数
自然が育む子どものチ・カ・ラ			
7/8	子どもの成長に欠かせない自然体験とは？	一寸木肇(大井町教育委員会)	10
7/9	身近な自然体験のススメ 子どもと虫の良い関係とは？	槐真史 (厚木市郷土資料館)	7
指導者向けスキルアップセミナー・セミナー「観察会の道具箱」			
2/8	写真編「自然観察に役立つ写真撮影のコツを学ぼう」	秋山幸也(相模原市立博物館)	33

別表 6. NACS-J 市民カレッジ（略称：Nカレ）

開催日	テーマと会場	講師	参加者数
シリーズ 1 いま知りたい、生物多様性（於：NACS-J 会議室）			
11/19	いま、改めて知る、生物多様性という言葉の奥深さ	道家哲平（NACS-J 保護研究部）	28
11/26	自分の言葉で語る生物多様性、ステップアップ実習	〃	22
12/10	生物多様性のゆくえ、世界と日本の生物多様性最前線	〃	22
シリーズ 2 生物多様性で企業はもっと強くなる（於：NACS-J 会議室）			
1/17	- なぜいま、生物多様性なのか - patagonia と生物多様性、その取り組みと今後の展開 - ソニーの取り組みと生物多様性	道家哲平（NACS-J 保護研究部） 篠健司（パタゴニア日本支社） 勝田淳二（ソニー）	13
1/29	- 都市の緑地で体感する生物多様性 - 企業の社会責任（CSR）のあるべき姿 - 生物多様性を自社の強みにするには	幸地彩子（NACS-J 教育普及部） 川北秀人（IIHOE） 岸和幸（Co-Creation Harmony）	13
シリーズ 3 酒と肴から、日本の自然が見えてくる！（於：NACS-J 会議室、丸の内さえずり館）			
1/31	酒と肴から風土を探る ～自然の「境目」がもたらす石川県のジオフード～	青木賢人（金沢大学）	27
2/21	微生物の多様性と調和で醸す「自然酒」づくり	寺田 優（榊寺田本家）	28
3/20	酒と肴と生物多様性 ～酒と肴から、地域の「生態系サービス」が見えてくる～	中静 透（東北大学大学院） 平澤 聡（朝日酒造㈱）	34

別表 7. 主催シンポジウム・セミナー等

開催日	タイトル	会場	参加者数
7/4	ネイチャーセミナー「サンゴ礁を知ろう」	丸の内さえずり館	20
9/1	防潮堤まつり in 東京「未来の海辺に何を残すか」	モンベル品川店	220
9/8 10/6 12/8	赤谷プロジェクト 10 周年・フィールドセミナー （主催：日本自然保護協会 共催：みなかみ町）	みなかみ町	45
10/23	オオタカ問題シンポジウム「オオタカをどうするか」 （共催：日本造園学会 生態工学研究委員会）	明治大学駿河台キャンパス	220
11/24	奇跡の原っぱ「そうふけばばら」を次世代へ ～キツネのくらすニュータウンづくりを目指して～	東京大学弥生講堂一条ホール	75
1/8	鹿児島シンポジウム「鹿児島の歴史文化と多様な生きものたち」 （共催：鹿児島県）	リナシティかのや	150
1/18	フォーラム「生物多様性おきなわ戦略で見る沖縄の未来」 （共催：沖縄・生物多様性市民ネットワーク）	船員会館	40
1/25	Nカレ特別セミナー「日本の自然のちからを知る」	清澄庭園大正記念館	37
〃	第 13 回沼田眞賞授賞式・記念講演会	〃	80
1/27	赤谷プロジェクト活動報告会 （共催：赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁関東森林管理局）	みなかみ町新治支所講義室	50
2/1	海の生き物を守るフォーラム 海の自然保護最前線！ （共催：海の生き物を守る会）	モンベル品川店	73
3/4	自治体担当者対象セミナー「生物多様性地域戦略の活かし方」	フォーラムエイト	35
3/9	自然をいかした地域づくりの展望～赤谷プロジェクト次の 10 年 （共催：赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁関東森林管理局）	東京農工大学	120

別表 8. 委員の派遣（カッコ内は要請主体）

- ・風力発電施設における供用後の鳥類等への環境影響実態把握調査に関する検討会（環境省総合環境政策局、継続）
- ・風力発電等環境アセスメント先行実施モデル候補地点点検会議（環境省総合環境政策局）
- ・地球環境パートナーシッププラザ（EPO・GEOC）運営委員会（環境省市民活動推進室、継続）
- ・尾瀬国立公園協議会（環境省関東地方環境事務所、継続）
- ・尾瀬国立公園快適利用の促進（利用分散等）に関する小委員会（環境省関東地方環境事務所、継続）
- ・アカガシラカラスバト保護増殖検討会（環境省関東地方環境事務所、継続）
- ・林政審議会及び林政審議会地球温暖化対策小委員会（林野庁、継続）
- ・再生可能エネルギーと森林の適正利用に係る有識者勉強会（林野庁）
- ・大雪・日高森林生態系保護地域保全管理委員会（林野庁北海道森林管理局、継続）
- ・保護林モニタリング調査等調査検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・富士丹沢緑の回廊モニタリング検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・「木曽地方における温帯性針葉樹林の取扱いについて」学識者会議（林野庁中部森林管理局）
- ・木曽地方の温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた取組検討委員会（林野庁中部森林管理局）
- ・奄美群島森林生態系保護地域保全管理委員会（林野庁九州森林管理局、継続）
- ・東京都シカ保護管理計画検討委員会（東京都、継続）
- ・東京都獣害対策委員会（東京都、継続）
- ・長野県希少野生動植物保護対策委員会（長野県、継続）
- ・新宿区みどりの推進審議会（新宿区）
- ・横須賀市自然環境アドバイザー（横須賀市）
- ・普天間飛行場移設事業の公有水面埋立承認申請に係る市長意見聴取会（名護市）
- ・只見ユネスコエコパーク推進協議会準備会（只見町）
- ・国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）運営部会・幹事会・連携会議（UNDB-J、継続）
- ・尾瀬至仏山保全対策会議（財団法人 尾瀬保護財団、継続）
- ・日本温泉協会地熱対策特別委員会（一般社団法人 日本温泉協会、継続）
- ・日本 MAB 計画委員会（日本 MAB 計画委員会、継続）
- ・愛知目標 3 委員会（特定非営利活動法人野生生物保全論研究会（JWCS）、継続）

別表 9. 催事等への後援・協力・職員派遣等（カッコ内は主催者・開催日）

[共催]

- ・生態系サービスとビジネス勉強会「自然に基づく経済の新たな道筋」（国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）・4/18）
- ・シンポジウム「ラムサール条約湿地の賢明な利用を考える」（NPO 法人ラムサールネットワーク日本・6/29）
- ・特別展「南島 ～カタチを変え続ける楽園の生きものたち～」(NPO 法人小笠原自然文化研究所・7/24～10/31)
- ・フォーラム「生物多様性おきなわ戦略で見る沖縄の未来」（沖縄・生物多様性市民ネットワーク・1/18）
- ・にじゅうまるプロジェクト第1回パートナーズ会合（国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）・2/15～16）
- ・公開シンポジウム・研究集会「絶滅危惧種保全研究」（「野生生物と社会」学会行政研究部会および絶滅危惧種保全研究会・3/6）
- ・南三陸町を見つめ、未来を語るフォーラム（南三陸町を見つめ、未来を語るフォーラム実行委員会・3/8～9）

[後援・協力]

- ・なごや自然教室（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部・4/28、6/22、8/31、10/27）
- ・湿地のグリーンウェイブ 2013（ラムサール・ネットワーク日本・4～6月）
- ・第 87 回 国展（国画会・5/1～13）
- ・「国際生物多様性の日」記念 みどりの自然観察会 in 日比谷公園（自然観察指導員東京連絡会・5/19）
- ・第 12 回ヒメボタルサミット in 愛知（ヒメボタルサミット in 愛知実行委員会・5/26）
- ・第 16 回日本水大賞（日本水大賞委員会・7/7～11/30）

- ・ふるさと親子自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部・7/14、8/10）
- ・ニコンプラザ仙台企画展「赤谷ノートの世界」～生き物のつながりから生物多様性が見えてくる（㈱ニコン・7/27）
- ・平成 25 年度 夏休み子供自然観察教室（利根沼田自然を愛する会・7/28）
- ・第 26 回 国際鳥類学会議（IOC2014）（ IOC2014 実行委員会・ 8/18 ～ 24）
- ・エコキッズ探検隊 2013「デジタルカメラで自然観察 & フォトフレームづくり」（㈱ニコン・8/22）
- ・第 30 回日本環境会議・宮城大会（日本環境会議・8/30 ～ 9/1）
- ・日本魚類学会市民公開講座「希少魚の保全と放流：本当に魚を守り、増やすには」（日本魚類学会・8/31）
- ・シンポジウム「明治大学と都市のエコロジカルネットワーク」（明治大学科学技術研究所多摩丘陵里山研究ユニット・10/13）
- ・あいち自然観察会 研修会「生物分類について」（愛知県自然観察指導員連絡協議会・10/14）
- ・第 2 回ユネスコエコパーク地域シンポジウム（只見町・10/27）
- ・東北の美しい未来を考えるフォーラム（東北の美しい未来を考えるフォーラム実行委員会・10/31）
- ・第 9 回千葉県自然観察指導員フォローアップ研修会（千葉県自然観察指導員協議会・11/23 ～ 24）
- ・シンポジウム「市民が考える川崎の自然と生物多様性」（NPO 法人かわさき自然調査団・12/1）
- ・シンポジウム「広げよう野生動物の歩道橋」（アニマルパスウェイ研究会・12/2）
- ・公開シンポジウム「富士山と房総の自然を語る集い」（公益社団法人日本山岳会千葉支部・12/7）
- ・第 7 回 生物多様性協働フォーラム（生物多様性協働フォーラム事務局、京都部、京都市・12/21）
- ・インタプリテーション実践力アップ研修会（一般社団法人インタープリテーションネットワーク・ジャパン・1/11 ～ 12）
- ・第 4 回 フォーラム「仙台湾／海岸エコトーンの復興を考える」（「フォーラム 仙台湾／海岸エコトーンの復興を考える」実行委員会・1/25）
- ・第 13 回草津市こども環境会議（第 13 回草津市こども環境会議実行委員会・2/1）
- ・2014 年 KiNOA インタプリテーション（KiNOA・2/1 ～ 2、3/1 ～ 2）
- ・2014 世界湿地の日記念イベント「守りたい吉野川の空と風 ～大きく変わる 吉野川河口～」(2014 世界湿地の日 吉野川実行委員会・2/2)
- ・公開シンポジウム「房総から望む富士山の自然と文化」と探訪会（東京湾学会・2/8、2/15）
- ・九州環境教育ミーティング in 波野（九州環境教育ミーティング・3/1 ～ 2）
- ・おきなわサンゴ礁ウィーク 2014（沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・3/1 ～ 9）
- ・公開シンポジウム「生き物と人が豊かに生きる「絆」づくり」（ミヤマシジミ研究会・3/8）
- ・公開シンポジウム「市民科学を实践するには ～日米の成功と失敗から学ぶ」（一般社団法人生物多様性アカデミー・3/16）

[職員派遣等]

- ・みのおエフエム「タッキー地球レポート」ラジオ出演（みのおエフエム・4/4、5/2、6/6、7/4、8/1、9/5、10/3、11/7、12/5、1/9、2/6、3/6）
- ・第 3 回生物多様性日本アワード 専門ワーキンググループメンバー（公益財団法人イオン環境財団・4/15、6/20）
- ・毎日新聞連載コラム「生き物のまなざし」執筆（毎日新聞社・4/26、5/24、6/21、7/19、8/16、9/13、10/11、11/8、12/6、1/10、2/7、3/14）
- ・長野県自然観察指導員連絡会 講師（長野県自然観察指導員連絡会・4/27）
- ・平筒沼人と自然の実践講習会 講師（登米市・5/9 ～ 10）
- ・自然講座「温帯性針葉樹林の重要性」講演（飯田市立美術博物館・5/11）
- ・森林技術総合研修所 署長研修講師（林野庁森林技術総合研修所・5/17）
- ・生物多様性の日記念市民シンポジウム 講演（国連生物多様性の 10 年市民ネットワーク・5/28）
- ・講義「環境と教育」（江戸川大学・6/6）
- ・授業「日本の森と赤谷プロジェクトの取り組み」（群馬県立利根実業高校講師・6/21）
- ・講演「綾ユネスコエコパークの取り組みについて」（Changbai Mountain International Eco-Festival 2013 China・6/27 ～ 7/3）
- ・平成 25 年度環境保全特別研修（独立行政法人水資源機構講師・7/22）
- ・国際チャリティー協会 勉強会講師（NPO 法人国際チャリティー協会 アムリタハート・7/29）
- ・『科学』2013 年 7 月号（特集・沖縄の自然）原稿執筆（岩波書店）
- ・生物多様性自治体ネットワークテーブルセミナー講師（横浜市・8/30）

- ・「リニア中央新幹線のアセス手続きの問題点について」講演（ちいさないのちの祭り実行委員会・8/30）
- ・「人と自然のふれあい調査」講師（鹿児島大学教育センター・9/5～7）
- ・環境保全に取り組む市民大集合 2013「調べた結果をどう活かす？」講演（長野県環境保全研究所・9/7）
- ・平成 25 年度森林施業技術研修講師（林野庁森林技術総合研修所・9/9）
- ・日本地理学会秋季大会シンポジウム「3.11 以後の地理学は何をなすべきか？ーたたかう地理学の視点からー」パネリスト（日本地理学会自然保護問題研究グループ・9/28～30）
- ・会報『環境アセス』9 月号 原稿執筆（環境アセスメント問題都民連絡会）
- ・「防潮堤問題を考える勉強会」講演（NPO 法人かながわ 311 ネットワーク・10/13）
- ・リニア勉強会講師（リニア相模原の会・10/14）
- ・観察会リーダー研修会「だれでもできる自然観察会のコツ」講師（越谷市自然ウォッチング指導員連絡協議会・10/14）
- ・環境カウンセラー研修会講師（環境カウンセラー全国連合会・10/15）
- ・社員向け赤谷現地ツアー 講師（株式会社ニコン・10/19～20）
- ・麻布大学授業「キャリア形成論」講師（麻布大学獣医学部・11/5）
- ・ベトナム国 国家生物多様性データベースシステム開発プロジェクト「NACS-J の活動と、市民調査による生物多様性モニタリングネットワークの構築」講師（11/6）
- ・平成 25 年度環境影響評価研修講師（環境省環境調査研修所・11/6）
- ・「三陸復興国立公園・保全活動発表会」講演（青森県・11/9）
- ・長沼「人と自然のふれあい調査実践講習会」講師（NPO 法人伊豆沼・長沼水環境ネットワーク・11/15～16）
- ・「2013 年度高尾わくわくアートコンテスト」審査員（高尾の森わくわくビレッジ・11/16、12/7）
- ・環境女子のための環境法勉強会～イケメン議員とエコスタディ（第 1 回 公有水面埋立法、第 2 回 環境アセスメント法）実行委員・講演（環境女子会☆・11/20、1/14、2/27、3/25）
- ・林野庁生物多様性研修 I 講師（林野庁森林技術総合研修所・11/20）
- ・横浜戸塚ロータリークラブ例会・卓話（横浜戸塚ロータリークラブ・11/29、2/26）
- ・シンポジウム「玉川上水 ラムサール条約登録の可能性をさぐる」講演（ちいさな虫や草やいきものたちを支える会・11/30）
- ・スーパーサイエンスハイスクール授業（千葉県立船橋高等学校・12/4）
- ・自然共生社会分科会セミナー講師（環境パートナーシップ会議・12/4）
- ・環境倫理学講義（千葉大学文学部・12/7、12/14）
- ・環境省那覇自然環境事務所委託事業「H25 年度地域の環境文化に依拠した世界遺産のあり方に関する調査検討業務」の一環で行う人と自然のふれあい調査講習会 講師（鹿児島大学教育センター・12/7～9）
- ・「野鳥のすめるまちづくりの集い・トークミーティング」パネラー（目黒区・12/8）
- ・「UNDB-J 全国ミーティング」コーディネーター（環境パートナーシップ会議・12/10）
- ・「大草谷津田いきものの里スキルアップ講座」講演（千葉市・12/14）
- ・日本造園学会誌「ランドスケープ研究」2014 年 1 月号（特集・オオタカをめぐる多様なかわり）原稿執筆（日本造園学会）
- ・谷戸のボランティア塾 野外実習・講義（瀬上さとやまの会の会・2/9）
- ・「自然再生基本方針」の見直しに向けた意見交換会 パネラー（環境省・2/18）
- ・「自然保護ボランティア育成講座」講演（千葉市・2/19）
- ・ワイルドライフマネジメント・プレフォーラム「野生生物の「反乱」を食い止める」講演（財団法人知床自然大学院大学 設立財団・3/8）
- ・徳島の生物多様性を守るボランティアリーダーのパワーアップ研修会講師（3/8～9）
- ・第 3 回ジュゴン連続学習会講演（ジュゴン保護キャンペーンセンター・3/30）